

## 第3章 本庄市の歴史文化の特徴

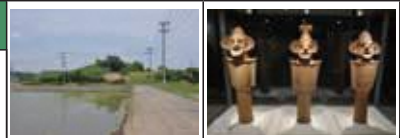
前章までの記述を基に、本市における文化財の概要を示すキーワードを抽出し、主な「時代」と「分野」の縦横軸で整理しました。加えて、文化財の周辺環境（自然的・地理的環境、社会的状況、歴史的背景）、文化財の特徴を踏まえた上で、これらのキーワードを特定のテーマによりまとめて整理したものを、本市における「歴史文化の特徴」として位置づけます。

原始	旧石器	今から約2万年前の旧石器時代の狩人たちが訪れ、その後の縄文、弥生、古墳の各時代においても定住する人々が増加 彼らが残した遺跡である埋蔵文化財包蔵地は県下有数で500か所余りを数える
	縄文 弥生	
古代	古墳	現在の本庄市域の大半が武蔵国児玉郡に編入され、平安時代の終わり頃には武蔵七党の一つである児玉党が勃興
	奈良 平安	
中世	鎌倉	資料に「本庄」の地名が現れるようになる 市内を通る「鎌倉街道」は、この地域が交通の要衝であったことを物語る
	室町	末期、児玉町八幡山に関東管領山内上杉氏が雉岡城を築城 児玉党の末裔とされる本庄実忠が本庄城を築城
近世	江戸	中山道を整備、天保年間（1830-1844）には本庄宿が中山道最大の宿場町に発展 鎌倉街道をもとに中山道脇往還川越道を整備 盲目の国学者・塙保己一の活躍（叢書「群書類従」の編纂・刊行、和学の研究教育機関「和学講談所」の創設などの功績）
		明治
近代	大正	児玉町旧配水塔をはじめとする近代水道を整備
	昭和	間瀬堰堤の完成

時代	社会・生活	産業・生産	統治・政治	信仰・祭礼	交通・経済	芸術・工芸	人物	
原始	旧石器	石器の出土	① 表情豊かな原始・古代の文化					
	縄文 弥生	土器の出土 竪穴式住居・集落遺跡	④ 風土に育まれた産業 (農耕と養蚕)					
古代	古墳	集落増加 古墳・石室の出現 群集墳	水田開発 埴輪窯跡 鉄器生産・ガラス小玉鋳造	⑤ 人々の祈りと祭り		② 鎌倉街道と武家社会		
	奈良 平安	条里制施行	九郷用水 瓦窯跡・炭窯跡	文字の普及 木簡の出土	古代寺院造営			
中世	鎌倉		荘園	児玉党勃興	中世寺院造営 板碑・五輪塔・供養塔 武士団の熊野信仰	鎌倉街道上道 児玉宿		
	室町			雉岡城・本庄城			⑥ 本庄にゆかりのある偉人たち	
近世	安土 桃山		朱印状(九郷用水)		近世寺院造営 板碑・五輪塔・石幢・宝篋印塔	伝馬手形	山内上杉氏 北条氏(後北条氏)・本庄氏 徳川家康	
	江戸		備前渠用水路	検地帳 城下整備	近世社寺整備 金鑽神社・八幡神社勧請 浅間山大噴火供養 獅子舞(雨乞い) 神輿の製作	中山道・本庄宿 利根川水運 児玉街道(中山道脇往還) 高札場	俳人の活躍 奉納絵画等 刀鍛冶	松平氏 小笠原氏 戸谷半兵衛 武正南庵・金井烏州 塙保己一
近代	明治	郵便局開局 警察署建設	養蚕業・製糸業興隆 養蚕の改良と普及		金鑽神楽伝承 屋台・山車の製作	繭市場・銀行設立 日本鉄道による路線敷設 近代的な橋の架設	本庄織物(本庄緋)	諸井恒平 木村九蔵
	大正・昭和	近代水道(配水塔)	児玉用水(間瀬堰堤)		万作			

## 1. 表情豊かな原始・古代の文化

本庄市域における人類の活動は、旧石器時代にさかのぼります。古墳時代に低地（女堀川流域）の水田開発が急速に進展したものと推定され、大規模な集落や古墳が相次いで築造されました。これらの古墳からは土器、ナイフ形石製品、埴輪などが出土しており、坊主頭の人物埴輪や大耳しゃくれあごの盾持人物埴輪など珍しい表現の埴輪が発見され、広く知られています。



代表的な文化財：宥勝寺裏埴輪窯跡、鷺山古墳（及び出土品）、御手長山古墳出土人物埴輪、小島前の山古墳出土盾持人物埴輪

## 2. 鎌倉街道と武家社会

児玉党は、児玉地域周辺に本拠を置き、後に鎌倉街道と呼ばれる道を馬に乗って鎌倉幕府へ出仕し、番役の勤めを果たしました。室町時代には五十子陣、雉岡城、本庄城などが築かれました。交通の要所にあった当地は、戦乱の中で山内上杉・後北条・徳川と統治が移り変わり、近世には鎌倉街道に重なる児玉街道（中山道脇往還）が整備されました。現在も街道を中心に歴史を物語る文化財が色濃く残っています。



代表的な文化財：鎌倉街道、児玉街道（中山道脇往還）、五十子陣跡、雉岡城跡、實相寺、本庄城跡、板碑（板石塔婆）、長泉寺中世文書

## 3. 中山道を行き交う人・文化・物資

本庄宿は、中山道最大の宿場町・利根川水運の集積地として発展し、近隣に神社・寺院が建立されました。文人の往来も多く、有力者との交流や庇護のもと華やかな文化が開きました。明治5（1872）年に官営富岡製糸工場が開業すると、本庄の繭市場がにぎわい、明治16（1883）年の日本鉄道開通後は機械製糸工場が複数進出し、市場が一層盛り上がりました。現在も中山道の興隆を背景とした遺構が点在しています。



代表的な文化財：田村本陣の門、金鑽神社社殿（天井絵）、安養院、旧本庄商業銀行煉瓦倉庫、旧本庄警察署、旧本庄仲町郵便局

## 4. 風土に育まれた産業（農耕と養蚕）

本庄市域は、利根川水系の水資源を背景に古代から条里制が施行され、多くの農業用水路が開かれました。現在も県内最古級の用水路・備前渠用水路や地域一帯に農業用水を確保する間瀬堰堤が稼働しています。近代には、横浜開港と生糸・蚕種の輸出に伴い養蚕業・製糸業が盛んになりました。桑の生産に適した地域では大規模な蚕種製造が行われ、現在も高窓を乗せた大型養蚕民家が見られます。



代表的な文化財：備前渠用水路、間瀬堰堤（同管理橋）、競進社模範蚕室、田島亀夫家住宅主屋・蚕室、高窓の里（秋平地区（小平））

## 5. 人々の祈りと祭り

本庄市には、古くから地域に根差した祭礼が数多く存在します。本庄地域や児玉地域の市街地では、秋祭りの際に豪華な山車や屋台の巡行が行われます。各地域では、五穀豊穡の祈願祭や感謝祭、雨乞いなど、生活や生業と密接にかかわる祭礼行事が執り行われています。また、天明3（1783）年の浅間山噴火の犠牲者を供養するために成身院百体観音堂が建立され、児玉三十三霊場めぐりが始まりました。



代表的な文化財：金鑽神社社殿、八幡神社社殿、山車、屋台、神輿、金鑽神楽、獅子舞、万作、児玉三十三霊場、成身院百体観音堂

## 6. 本庄にゆかりのある偉人たち

本庄市は、多くの偉人を輩出しています。全盲の国学者・塙保己一は、『群書類従』の編纂により歴史学・国学・国文学等の学的研究に貢献しました。木村九蔵は、養蚕結社「競進社」を結成、蚕の品種改良や飼育法の研究・普及に励みました。諸井恒平は、セメント製造事業の開拓を手掛け「セメント王」とも呼ばれました。その他、教育、産業、文学、芸術、医学等の分野に功績者が見られます。



代表的な人物：塙保己一、木村九蔵、諸井恒平、岡登景能、戸谷半兵衛、中里忠兵衛、野沢正三郎、吉田清英、石川三四郎

## 7. 本庄の歴史を見守る緑の景観

市北部には利根川が流れ、南部に500m級の山々がそびえる本庄市は、夏に雨が多く冬に少ない東日本型気候で、水と緑の豊かな自然環境に恵まれた風土です。古くはこの地が「若泉の荘」という荘園で、荘園の中心地の意の「本荘」から「本庄」の地名が名付けられました。市内には、中世から近世にかけて、神社・寺院の整備を契機に植えられたと考えられる巨木・古木・名木が散見されます。



代表的な文化財：城山稲荷神社のケヤキ・ヤブツバキ、金鑽神社のクスノキ・カヤ、骨波田のフジ、八幡神社のヤブツバキと社叢林